

日本あちこち河川遡行記（第289回）

奈良1-8. 寺川（その1）前半 令和1年10月2日（水）曇り

奈良県内の数多くの大和川の支流群の最後、「寺川」の調査に出かける。いつもの毎週金曜日8時過ぎのこだまでは無く、今日は臨時に1時間早いこだまに乗る。これに乗らないと寺川が本流に合流する地点に向かう川西町営コミバスに間に合わないのだ。寺川は大和平野の南東部から流れ桜井、橿原、田原本三宅、川西の各市町と平野の中央を北北西に流れる川である。



01.今回調査区間位置図

難波駅のホームの東端で電車を待つと線路を見ると、線路際に赤○、青○、赤△などの掲示板が立ち、ホームにも描かれている。近鉄難波線と阪神西大坂線が繋がり相互乗り入れをしているが、近鉄と阪神の車体長さ（車両限界という）の違い（近鉄はJRなどと同じ20m、阪神は18m）とドアの数（近鉄は4、阪神は3）の違いでドアの位置が異なるので、やって来る電車毎に電光案内板と放送でその位置の記号を知らせている。

有名なのは名鉄の新名古屋駅の乗車ホームの足元で、その複雑なこと！新岐阜行き、犬山・鶯沼行き、津島・弥富行き、各方面の特急、急行・各停の種別により、編成両数の違いと行き先の違いで電車の先頭位置が異なり、ドア位置もドア2の特急と3と4の急行などの種別で異なり、これを各電車毎に乗客は見事に並んで待っている。反対側のホームも豊橋方面、河和・常滑方面、碧南・豊田市方面と同じように行き2分毎にやって来る電車を捌いていた。



02.近鉄難波駅の足元には○、△の立て
札が



03.ホームの端にも○、△が

10時過ぎに近鉄橿原線「結崎」駅に到着。本流遡行時に降り立った駅で、今日は二度目である。前回気づかなかった「観世流発祥の地」の木柱がホームに立っている。大和猿楽の1派が結崎で観世流に発展していったようだ。



04.結崎は観世流発祥の地だぞ

駅付近でコミバスのバス停を探すが見当たらず、駅東のスーパーにもバス停が有りバスまで30分ほど有るのでスーパーに立ち寄り昼の用意をしておく。スーパーのレジには大勢の人が並び時間がかかる。サンマ寿司が有ったのでこれをバス停で大急ぎで食べる。

バス停標柱の小さなこと！背が低く目の高さよりはるか下に有る、これでは遠くからでは見えにくく駅前では見つけられなかったのだ。10時35分発のこのバスに乗るために今日は臨時便を出した。



05.川西町の右下から左上にコミバスで 06.スーパー前で10時35分発の川西町営「こすもす号」を待つ

すぐにコミバス「こすもす号」がやって来た。どこでもお馴染みのワゴン車タイプである。100円を支払い「南吐田（はんだ）まで」と言って乗り込む。大和平野に多く有る市町のコミバスは大半が100円均一である。市町の面積が狭く路線距離が短く、町内巡回の路線が多い。

田圃と集落の間の狭い道を曲がり曲がりワゴン車は北西の町の端の方に向かう。本流遡行時に歩いた土手道も通過して行く。15分ほどの乗車で最初の橋「吐田橋」の袂のバス停に着く。橋の調査のために設置してくれたようなバス停である。



07.4名が乗って町内をぐるりと一周する

08.大和川本流との合流点近くの「南吐田」で下車

今日は台風18号接近で雨の心配をしていたがどうやら大丈夫なようだ。南からの湿った風で蒸し暑い。10月になっても30度の高温が続き、日本は温帯気候から亜熱帯気候に変身したように感じる。

右岸側の土手道を東に進み、直ぐに方向が南東に変わって行く。土手道が突

然草ぼうぼうの姿に変わり、前進は能わず！仕方なく土手を降り田んぼの間のあぜ道などを渡り歩く。大きく迂回して土手道に戻る。葛城川、高田川、飛鳥川等では草刈りが十分行われていたが寺川はアウトである。

南東方向から再び東に向きを変え進むと、お寺の東側に出来立てほやほやの墓地が多くの区画を揃えて入居者を待っている。4,5の墓石も立っている、「ポチポチでんなー」。



09.真新しい寺の墓地にポチポチ墓石が立ちだしたナ

東の彼方には大規模な国道 24 号と「京奈和自動車道」の橋梁群が空を圧している。奈良の独特の空間には馴染めない景観である。全国同じ姿の橋梁形式で相違工夫が無いな一。

土手道の左の 1 本の桜の木の下に小さな地藏堂が身を隠している。更に 100m ほど進むと今が盛りのコスモスの先にも地藏堂が隠れている。日本人にとってはお地藏さんが最も身近な仏像で、道しるべにもなっている。



10.土手道の桜の木の下にミニ地藏堂が



11.次の橋の袂にはコスモスの中にミニ地藏堂が

「コオロギ橋」まで来ると土手道は兩岸とも草ぼうぼうとなり、二度目の迂

回を余儀なくされる。



12.京都行き特急が橋を通過

橿原線の下を潜る函渠まで来ると直ぐ北側には「結崎駅」が見える。ここまでバスと徒歩で反時計回りで1周してきたことになる。

国道24号の京奈和道の複雑怪奇な橋梁群の下を潜る。本線、オンランプ、オフランプ、一般道とそれぞれが別々の平面線形、縦断線形、橋の径間割りで川を越えている。川から相当高いこんな位置を越える必要があるのかいな？



13.京奈和道と国道24号が川を越える



14.本線、オンランプ、オフランプ、一般道の各橋の複雑なこと！

[続く]